

MIRAI

市民の合唱によるシティプロモーション動画
「MIRAIを歌う」が公開されました

PEOPLE

わたしたちらしいMIRAIって
どんなだろう？

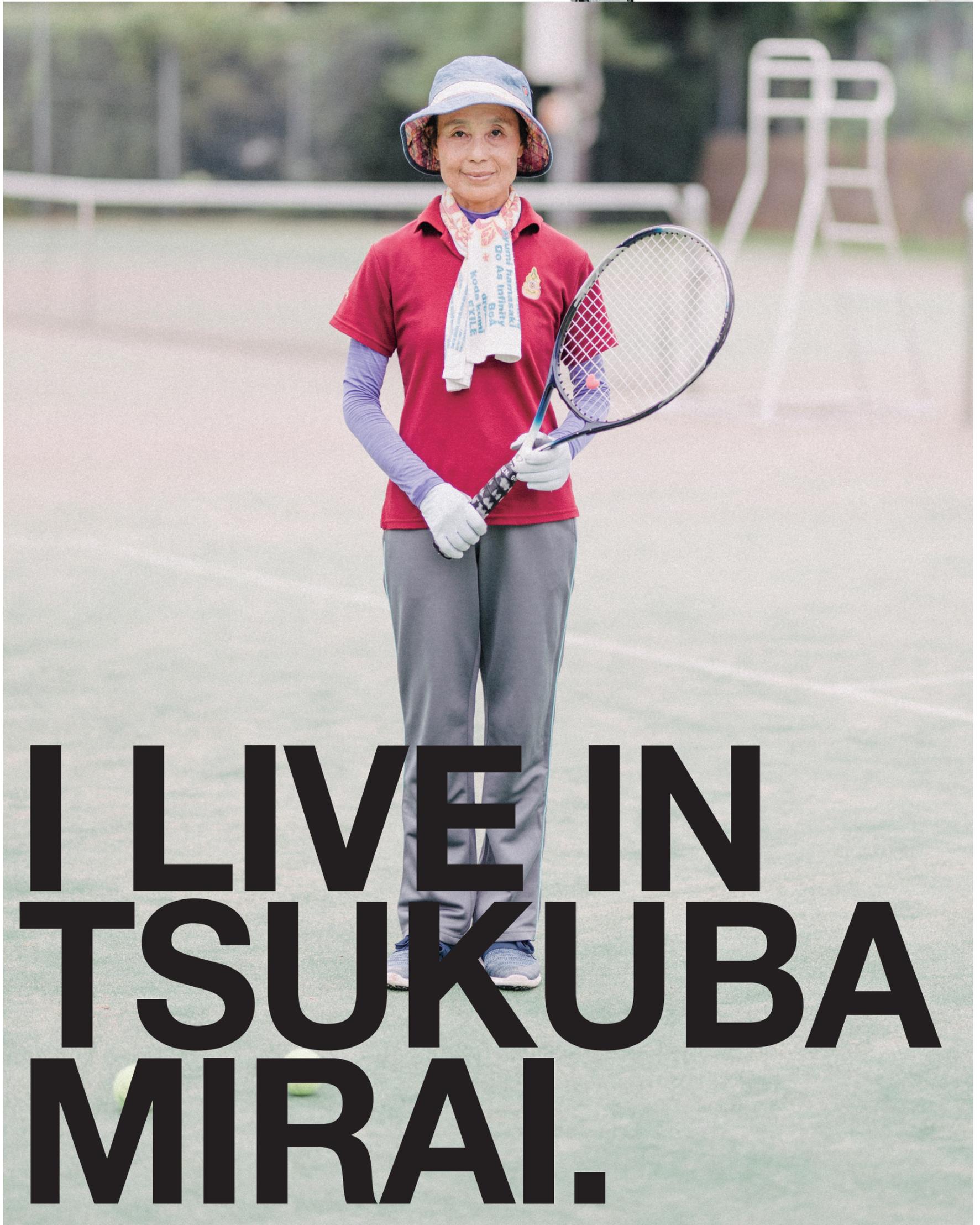
市民のみなさんに訊いてみました P6



NEWS

TSUKUBAMIRAI
NEWS

つくばみらい市に初の産婦人科医院が誕生！ P11



I LIVE IN
TSUKUBA
MIRAI.

MIRAI

作詞・作曲：三船雅也 (ROTH BART BARON)

ねえ 僕らがそらに 放った歌は
いつか いつか

遠い 未来の 名前も知らない
あなたに 届くの？

まだ 見たことのない 場所へ連れて行ってよ
誰も 歌ったことのない 歌を ここで歌うよ

ねえ 僕らが見つけた 足跡たちは
重なり 重なり

遠い 未来の 名前も知らない
あなたが 歩むの？

いくつもの大陸を 彷徨って 彷徨い続けて
種を蒔いていたんだ 頼まれてもいないのに！

ねえ 僕らがそらに 放った歌は
いつか いつか

遠い 未来の 名前も知らない
あなたが 歌ってよ

わたしたちらしいMIRAI って どんなだろう？

参加した市民のみなさんに
訊いてみました。

3/27（日）。前日の雨が草木を濡らし、かすかに春の訪れを告げるうららかな風が吹く午前10時、つくばみらい市の新興住宅街から田畑へと続く一本の道で撮影された『MIRAI』。約200人の市民が集まり、一斉に歌う姿は、ノンストップ発撮りでおこなわれ、舞台裏では交

通整理の警備員、受付の市役所職員、協力して下さった住民の方々が見守る。一人ひとりがあるままに自分らしく歌い、笑い、友と手を取り合い、子どもは父母に抱かれ、地上から上っていくカメラには、手をふる人々、新しい街並み、どこまでも続く空が広がっていた。

わたしたちは、つくばみらいで生まれ育った幼なじみ。
ファミレスが増えたらうれしいけど、今のままでもいいか(笑)。
——そうだね、ぼくはいつか地元でスポーツを教えたいな！
ぼくは放射線技師を目指しているよ。
わたしは出版社で編集の仕事がしたいな。
いいね、またつくばみらいで集まって語り合おうね。



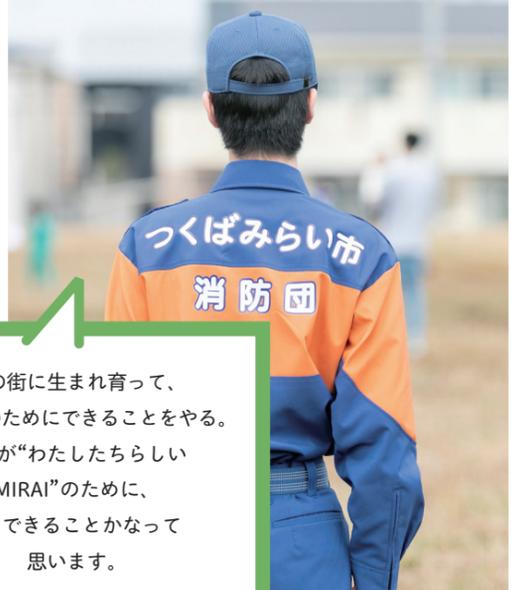
大好きな愛犬たちも元気に暮らしています。
ふたりでゆっくり話せる時間が多いのも、
都会よりも静かだからかな？
——うん、広々とした自然もあるからかな。
いつまでも心地いいつくばみらいであってほしいよね。

いつでも安全な街であるように。
それが私たちの使命ですから、
今日も巡回してきます！



自然も公園も身近にあって、
家族との時間を、
もっと大切にできる。
それがつくばみらいで
叶えた暮らしです。
子どもが元気に
大きくなってくれることが、
なによりの“わたしたちらしい
MIRAI”ですかね(笑)。

つくばみらいは、ほどよい田舎って感じです。
自然があって、自転車でいろんなところへ遊びに行ける。
大学生になったら一度は離れるかもしれないけど、
きつとつくばみらいに戻ってきたいと思うんだろうなあ。
そんな気がしています。



この街に生まれ育って、
この街のためにできることをやる。
それが“わたしたちらしい
MIRAI”のために、
僕にできることになって
思います。



この街に暮らして、同じ趣味でつながった仲間たち。好きなことをありのままに、みんなで一緒に楽しめる。それが“わたしたちらしいMIRAI”になっていくんだと思います。



バッチこーい！
いつまでも、つくばみらいで楽しく健やかに暮らして、一球入魂しようぜ！

子育て支援室「BLOOM」で出会って、育児のこと、たくさん話してきたね。来春から子どもたちが入園。離ればなれになってもずっと友だち。困った時はまた話そうね。そういう絆がつくばみらいで見つけた“わたしたちらしいMIRAI”、だよねっ(笑)？



ベッドタウンとして開かれたつくばみらい。今ではこの街で生まれ育って、Uターンした若者もいます。風光明媚な観光名所がなくなっただけ、この街らしさはみんなで作っていきける。“わたしたちらしいMIRAI”へむかって、いろんな思い出が重なっていきますように。

何を着るかじゃなくて、どう着るか。

—あるスタイリストがそんなことを言っていた。わたしたちは今、そんな気分なのか。この街にいるということは変わらなくて、今日が大切な思い出の昨日になって、いつかまた出会う幸せな瞬間を夢見たりしている。子どもたちの幸せ、将来なりたい自分、この街の美しさ。思い思いにみんなそれぞれのスタイルでここに生きている。そんな生き方が色とりどりに広がったら、お祭りみたいにすてきになっていくのかも。どこに生きるかじゃなくて、どう生きるか。“わたしたちらしいMIRAI”ってどんなだろう？



実は、僕とカメラマンは海外留学時代の同期で、今回の撮影で再会しました。『MIRAI』をテーマにした楽曲の撮影で、こうやって再会できたのはなんだか感慨深いです。夢を諦めないこと。それが“わたしたちらしいMIRAI”につながっていくような気がします。



ママも友だちたくさんで、ボクもうれしいなあ〜。

市役所で教育生涯学習の仕事をしています。ずっと何かを学び続けられる機会をつくるのが、“わたしたちらしいMIRAI”のため。この街への恩返しです。

看護師になることが夢です。「警察のお世話になるような人がいない街」でありますように。

つくばみらい市の給食センターで働いています。“わたしたちらしいMIRAI”は、子どもたちがお腹いっぱい元気になれること！

これからも「あたたかい人がたくさんいる街」であり続けたいです。

『MIRAI』のコーディングにわたしたちも参加しています！大人になったら、今度はわたしたちが、つくばみらいの子どもたちと音楽を作ったり、『MIRAI』の演奏を教えたりしたいなあ〜！



『MIRAI』をみんなで歌う今日の思い出が、“わたしたちらしいMIRAI”をみんなで考えるきっかけになりますように。—オーライ、オーライ。ちょっと、車の誘導行ってきまーす！



BEHIND THE SCENES 製作のうらばなし

三船雅也 / MIRAI 作詞・作曲

街の音楽を作る、これは僕の人生で初めてのことでした。しかしふと考えてみると、いつも僕は現実に生きる人々から、暮らしから何かを受け取り、まだ見たことのない想像のこれから生きるであろう架空の街の音楽をいつも作り続けていました。

つくばみらい市のオファーをいただいたとき、僕はどのような音楽がこの街で鳴ってほしいんだろうか考えていました。そして僕たちを取り巻くこの“暮らし”って何なんだろうかってぐるぐる考えました。

何かこの街で流れる音楽には、学校で教えられる音楽とは全然違う、もっと自由に体全身いっぱい使って、震えるような、血がどくどく波打つような力強い歌が欲しいと思いました。

街に足りないのは歌なんだと思います。

遠い過去から民族は大移動を続けて暮らしを作り、あるものは定住し、またあるものは渡鳥のように流れてゆく。

僕が生きる今ではどこを歩いても大体の場所に人間は存在し、暮らしが存在します。

何気なく踏み込んだどこかの街が誰かの故郷であり、帰る場所です。

どこに暮らしていたっていいんです。そこで、ここで生きることを選んだ人たちの歌、それを僕はもっとたくさん歌っていたいし、聞いていたいです。

この歌をつくばみらい市の皆さんと一緒に作れたことを本当にうれしく思います。みんなのエナジーが、喜びが、音がたくさん封じ込められた唯一無二の歌です。いつかこの音楽を目一杯大きな音で街のみんなと演奏できるミライを想像しながら。

三船雅也 (みふねまさや)

音楽家・写真家。2008年にインディー・ロック・バンド「ROTH BART BARON」(ロットバルトバロン)を結成。これまでに4枚のEP、4枚のオリジナルアルバムを発表。フジロックやサマーソニック、ライジングサン、海外の大型フェスにも出演している。



菱川勢一 / クリエイティブディレクター

「I LIVE IN TSUKUBAMIRAI」プロジェクトに新しい「何か」が必要だと考え、みんなで歌を唄うことの尊さを提案しました。歌の力に、強く心を動かされた出来事があります。「人間の鎖」と呼ばれる、1989年のバルト三国の200万人の合唱デモがそのひ

とつです。いつの時代も、未来はまだ何も決まっていなくても、人それぞれ未来への想いがある。大声で空に向かって歌を唄って、未来へ思いを馳せる。今回の合唱で残したのは足跡であり、バトンであり、心のこもった声のロゼッタストーンのようなもの。それを未来の誰かが受け取って、この地で豊かな暮らしが育まれたら。そのときにこの合唱の価値が開くでしょう。みんなに愛される歌になることを夢見ています。

菱川勢一 (ひしかわせいいち)

1969年東京生まれ。映画監督/写真家/演出家/クリエイティブ・ディレクター/武蔵野美術大学教授。主な仕事にNHK大河ドラマ「功名が辻」、「八重の桜」、子供教育番組「JAPANGLE」など。2020年新作映画「新青春」を撮りました。未来新聞編集長。



小田川浩 / つくばみらい市長

市民から溢れ出すこの土地への想いや心豊かな生活、未来へのエネルギーが浸透していく、そんな想いを込めて「I LIVE IN TSUKUBAMIRAI」が始まりました。市民100人のポスター、移住者インタビュー映像、未来新聞など、プロジェクトが歩みを

進めると共に、市内外への認知度も向上していることを感じます。

コロナ禍を経て、人と人がつながることの大切さを見つめ直した時代。『MIRAI』では、市民と一緒に歌声を響かせたことに大きな価値があり、自分らしく日々を乗り越えていく“つくばみらいの意志”が世界中に届くことを願っています。市民のみなさんが「わたしは、つくばみらいに住んでいる」と胸を張れる、誇り高い街になるよう努めていきます。

小田川浩 (おだがわひろし)

昭和42年1月23日生まれ、つくばみらい市福原出身。三島小学校、伊奈中学校、茨城県立藤代高等学校卒業。明治大学公共政策大学院修了。会社員を経て会社役員。平成24年つくばみらい市議会議員初当選。平成28年つくばみらい市議会議員2期当選。



吉谷卓真 / つくばみらい市役所 秘書広報課

秘書広報課にきて1年目、シティプロモーションの仕事に任されることとなりましたが、シティプロモーションとは？からの始まりでした。シティプロモーション=市のPRと単純に考えていましたが、先輩やドローイングアンドマニュアルの方々に「I LIVE IN TSUKUBAMIRAI」に込められた想いを教えていただき、シティプロモーションの重要性、使命感を痛感した事を覚えています。

今回提案いただいた「市民の大合唱」。「自分らしさ」「強いメッセージを心震わせる映像で」それを表現できるのは、市民が同じ方向を向いて歌うこと。そのイメージで見ていただいた「18祭」や「Foo Fighters Rockin' 1000」では参加者全員が熱く、自分らしく、楽しそうに歌い・演奏していて、これがここで出来たらどんなに楽しいことか、参加した人たち、それを見た市民はきっと誇りに思うだろうと、まさに自分の心が震えました。

ROTH BART BARONに書き下ろしていただいた「MIRAI」。これを歌う一人一人が、未来を考え、未来に想い、未来と繋がっていく。未来があるつくばみらい市に住む市民がこれを最初に歌えることがありがたい。

撮影当日は、200人と8匹の市民が、自分らしく、笑顔で、楽しそうに「MIRAI」を歌えたことは、市にとっても市民にとっても未来に繋がるポイントとなったと思いますし、映像を見た人たちの心と繋がるものとなったと思います。

協力いただいた参加者の皆さん、楽曲を制作いただいたROTH BART BARON、プロデュースいただいたドローイングアンドマニュアルの皆さん、本当にありがとうございました。

吉谷卓真 (よしやたくま)

昭和62年9月27日生まれ、つくばみらい市谷井田出身。谷井田小学校、伊奈中学校、茨城県立伊奈高等学校卒業。平成22年入庁後、4課(上下水道課、生活環境課、建設課、スポーツ推進室)を経て令和3年度より秘書広報課。



歌と音の本



まいにちたのしい

KAKATO ぶん / オオクボリュウ エ
ブロンズ新社 / ¥1,430

「ようよう たいよう さんさん おはよう」。ラップグループ「KAKATO」による軽快なラップで、朝起きて夜寝るまでが描かれています。読んでみると自然とうきうきしてきて、声に出して読みたくなることでしょう。「世界はリズムそのもの！」ですって！



もけら もけら

山下洋輔 ぶん / 元永定正 エ / 中辻悦子 構成
福音館書店 / ¥1,320

ジャズピアニストの山下洋輔さんが文を書いています。文というより、まさに音といった感じです。ジャズのスイングで歌うように読んでみてください。きっと作曲するように、この絵本をつくったのだろうなあ。



カニ ツンツン

金関寿夫 ぶん / 元永定正 エ
福音館書店 / ¥990

先日、ある人がこの絵本をとっても上手に読むのを聞きました。全然言葉の意味はわからないのですが、読んでいるのを聞いていると、だんだんと言葉たちに、明るい、暗い、楽しい、重い、みたいな印象が生まれて、命が吹き込まれていくようです。



たあんき ぼおんき たんころりん

たんたんたのしいうたづくし

長谷川撰子 文 / 降矢なな 絵
福音館書店 / ¥990

韻を踏んだりリズムのよい文章が楽しくって、耳に残ります。かたつむりが自転車に乗ったり、じゃがいもが散歩したり、ナンセンスなんだけれど、降谷ななさんの絵で想像が膨らみます。きっと、「たあんき ぼおんき たんころりん」って口ずさみたくなるはず。



あーと いてよ あー

小野寺悦子 ぶん / 堀川理万子

自分の声はどんな声？録音した声を聞いてみると何だかすごく変な感じ……。「あー」だけでもいろんな「あー」があります。一字でいろんな感情を伝えられちゃう。自分の気持ちが声によってわかって、不思議。さあ、「あー」と言ってみましょう！



こどものとも 2022年7月号

ねこまたえん

とみながまい 文 / 花山かずみ 絵
福音館書店 / ¥440

だいちゃん、お歌の時間がきらいで幼稚園に行きたくありません。ネコのミケに誘われて、「ねこまたえん」に行くことに。そこでは、何でも好きなことを好きな時にしているので。みんなで楽しく踊っていたら、なんだかとても歌いたくなってきて……。



ぐきがさんとふへぼさん

岸田衞子 さく / にしむらあつこ え
福音館書店 / ¥990

重くて強そうなくきがさんと、ふわふわ軽いふへぼさん。正反対のふたりだけとっても仲よしで楽しそう。ふたりにかかれれば、何でもふたりの色に染まります。皆さんがよく知るあの歌も、全然違う歌に聞こえるかもしれませんよ。



春のうたが きこえる

市川里美 作
偕成社 / ¥1,540

春の気配が漂ってきます。こどもたちが朝起きると春がやってきていました。目いっぱい春を感じながら遊んで、夜は風と星の子守歌に抱かれながら明日を夢見ます。こどもたちのほうが、上手に五感を使って季節の移り変わりを感じているのでしょうか。見習いたいです。



ぼくが ふえを ふいたら

阿部海太
岩波書店 / ¥1,870

「フルー フルー」、僕が風の音のような笛を吹くと……。動物たちが集まってきて音を奏でます。いろんな音が重なって行って、ひとつになって、はじけます。暗闇の中に描かれた動物たちは光を放ち、絵本から彼らが奏でる音が聞こえてくるようです。



せんはうたう

谷川俊太郎 詩 / 望月通陽 絵
ゆめある舎 / ¥1,980

谷川俊太郎さんの詩なのですが、心にすっと染み渡るような言葉が並びます。「おんがくもおと なきごえもおと ちきゅうはおとのほし」。一旦立ち止まって、時々、自分の心の中にある歌に耳を澄ましてみてください。



おいで、もんしろ蝶

工藤直子 文 / 皆川明 絵
フェリシモ出版 / 絶版

この絵本、なぜか、もんしろ蝶が軽やかに歌うような印象が強かったのですが、改めて読んでみたら、歌っていたのは違う人でした。もんしろ蝶は最後にその歌を聞きながら、幸福な夢を見ていたのだらうと思います。優しく少ししみりする大好きなお話です。



オオカミのうた

ポール・ドロシー・ゴープル さく / おおなかなやえこ やく / ほるぶ出版 / 絶版

アメリカ・インディアンたちとオオカミのお話。インディアンの世界では、人間が誕生する前、「動物人間」がいて、人間のように話し、服のように毛皮を着ていたのだそう。この絵本に出てくるオオカミ人間も、ふたりの幼い兄妹を助けてくれます。



マザー・グースのうた のんきなかりゅうど

スーザン・ジェファース さく / 清水真砂子 やく / アリス館 / 絶版

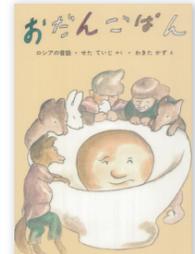
マザーグースの歌の一篇が絵本になっています。アメリカの片田舎で森や動物たちに囲まれて暮らしていた作者の絵と、リズムのよい文章の調和が心地よいです。さて、全部で何匹の動物たちが登場しているのでしょうか？



ランパンパン インドみんわ

マギー・ダフ さいわ / 山口文生 やく / ホセ・アルエゴ、アリアヌ・ドワイエ / 評論社 / ¥1,320

とってもいい声の持ち主のクロドリ。王様は自分のものにしようとか来に命じるのですが、間違っクロドリの奥さんがさらわれてしまいます。怒ったクロドリは、ネコやアリアや木の枝、川まで味方につけて王様のもとへ。「ランパンパン」って何の音だと思いませんか？



おだんごばん ロシアの昔話

せたていじやく / わきたかず え
福音館書店 / ¥1,320

ロシアの昔話。おばあさんがつくったおだんごばん、いろんな動物たちに食べられそうになるのですが、その度に「♪ぼくは、てんかの おだんごばん。」と歌って、上手に逃げ続けます。でも最後には……。ちょっとお調子者な感じのするおだんごばんの表情がいい。

編集部の“みらい企業”探訪

太洋コーン株式会社

サクッ！パリッ！美味しー！
“コーン”が支える
日本のアイスクリーム文化？！

アイスクリームの名脇役？

子どもの頃、近くの駄菓子屋さんに行って、お小遣いの範囲内でいろいろな駄菓子を選んだ楽しさは、大人になった今でも忘れられません。ちなみに、僕が好きだった駄菓子は、「酢だこさん太郎」に、「花串のカステラ」「ビッグカツ」「ヤングドーナツ」「さくら大根」「フラワーヨーグル」……その数挙げればきりがありませんが、茨城県を代表する駄菓子の王様といえば、リスカの「うまい棒」でしょう。あ、リスカといえば、「ハートチップル」も忘れてはなりません。あれから数十年、大人になった今では、駄菓子屋も少なくなりましたが、コンビニでたまに駄菓子コーナーを見かけるとついつい懐かしくて買ってしまいます。きっと駄菓子には、他の物とは替えることのできない魅力がたっぷり詰まっているのでしょう。

そして、駄菓子にも増して、子どもだけでなく、大人もみんなその“魔力”に引き込まれてしまうのが、アイスクリーム。当時、駄菓子屋で人気があったのは、「ホームランバー」や、「メロン玉シャーベット」「チューベツ」「エルコーン」などなど。今でも不動の人気を集める“名作アイスクリーム”がありますが、最近では夏に限らず、むしろ冬こそ人気のアイスクリーム。メーカーもさまざま、昔ながらのサーティーワンやブルーシールに、ちょっと贅沢なハーゲンダッツやレディボordenなども今では珍しくありません。

そんなアイスクリームにちなんで、今回の『編集部の“みらい企業”探訪』は、つくばみらい市台にある「太洋コーン株式会社」（つくば工場）です。しかも、ここはアイスクリームの名脇役でもある、コーンやモナカの製造メーカー。日本でのシェア35パーセントというから、みなさんが食べているあ

のアイスクリームのコーンやモナカも、もしかすると太洋コーン製かもしれませんね。それでは、工場へお邪魔してみましょう！

“おててメーション”の可能性

太洋コーンの創業は1948年（昭和23年）、東京都足立区千住から。その昔、浅草界隈で販売していた駄菓子「ソース煎餅」づくりから発展して、アイスクリーム用のコーンやモナカ類の製造が始まったといます。1954年（昭和29年）、株式会社として設立。日本で初めてのオートマチック・コーンマシンの開発まで行ない、さらにモナカの自動焼成機を発明し、大量生産が可能にもなりました。平成に入って、大型のワッフルコーン機を導入し、2006年（平成18年）には、九州協力工場を設立。そして、2013年（平成25年）に、つくばみらい市に新工場を誕生させました。これまでの歩みを見ると、僕たちの親の世代からすでに太洋コーンの製品は市場に出回っていたことになります。世代を超えてずっと愛され続けてきたというのも、なんだか感慨深い話ですね。

さて、そんな太洋コーンが、他のメーカーと比べて何が得意なのか？今回、お話を伺った3代目の代表取締役・広瀬晃仙さんは、大事なのは「おててメーション」だと言います。オートメーションではなく、職人さんたちの“御手手”を最大限に使った製造技術。きけば、長い製造ラインを持つ大きな工場では、期間限定商品や、小規模のお店などからの小ロット注文は、なかなか応えられません。しかし、太洋コーンでは、職人さんたちの技術力にも増して、「こうしたらできる」という応用力があります。決して大きな工場ではないからこそ、

太洋コーン株式会社

文・神藤秀人



「お客様のニーズに一つ一つ応えていきたい」と広瀬さん。全国のシェアを守っていただけるのも、「太洋さんなら、なんとかしてくれる」——そういう信頼関係の賜物でもあるのです。実際に、工場見学をさせていただいて驚いたのは、（上に書いたように）小規模の工場だったということです。広瀬さんの話すように、職人さん一人一人の持ち場に対する責任意識が高いように感じ、決して遅くはない製造ラインのオートメーションに、“おててメーション”が、しっかりと作用していました。え、これ失敗なの？という製品の合格・不合格を、次から次へと判断する瞬発力も、目を見張るものがあります。

アイスクリームの主役は？

広瀬さんは、裏方の仕事だと言いますが、アイスクリームにとってコーンやモナカは、本当に脇役なのでしょうか。どちらかという、アイスクリームを構成するための、大事な「要素」の一つで、それは、お米と具材と海苔の共演「おにぎり」と同じこと。ある商品（商品名はお伝えできないのが残念！）は、バナナと板チョコとモナカのバランスが絶妙で、どれも絶対に欠けることのできないアイスクリーム。実際に、『コーン』や『モナカ』と商品名につくものもたくさんありますし、コーンやモナカをもっと前面に押し出したアイスクリームもこれからもっと登場するかもしれませんね。

工場見学の帰りに、僕は、コンビニでワッフルコーンのアイスクリームを買って食べました。気のせいかもしれませんが、いつもより、ワッフルコーンの生地味が濃かったように思え、ついつい顔がほころんでしまいました。決して表舞台には登場しない「太洋コーン」ですが、日本の“アイスクリーム文化”を支えてきた重要な企業。これからも、つくばみらい市をはじめ、日本中にアイスクリームの美味しさを届け続けてくれるはずですよ。

太洋コーン株式会社 つくば工場

住所：茨城県つくばみらい市台1843-4

電話：0297-25-2077

取材した人の声

将来は、コーンやモナカだけでなく、菓子素材も開発していけたらと思っています。ですからこのつくば工場に続いて、新しい工場の建設も考えています。また、つくばみらい市周辺では、大麦なども収穫できるので、ダックワーズなど、この地域ならではのお菓子も作って、住民の皆さんに喜んでもらえたらと思っています。

左から
代表取締役
広瀬晃仙さん
生産本部 本部長 品質保証兼任
立平裕之さん



編集部の“みらい企業”探訪

東鉄工業株式会社

東鉄総合研修センター



文・神藤秀人

つくばみらい発、“安全・安心”の鉄道 頼れるスペシャリストたちの 育成施設

鉄道を取り巻くモノ・コト

2005年に開業した「つくばエクスプレス(TX)」。始発の秋葉原から、終点のつくばまで、およそ45分。東京、埼玉、千葉、茨城へと県をまたぎ、住宅や河川、畑、田んぼ、山、トンネル……車窓からの景色はめくるめく変わる。広大な関東平野を縦断する今ではなくてはならない関東人の“足”。以前、筑波大学の生徒さんが、「ちょっと北千住まで行って来る」「え、今から?！」と会話したことや、“茨城都民”なんて言葉も思いつくと、人々の生活は、「鉄道」の存在が密接なのだあと、つくづく感じます。昔は、“ちょっとやそと”の距離では到底なかったはずなのに……

そんな鉄道列車をひとつ走らせるためには、たくさんの人たちの協力が必要です。例えば、車両そのもののデザイン。観光寝台列車「なつ星」をはじめとする鉄道デザインの第一人者・水戸岡鋭治さんなどによって、さまざまな車両が生み出されてきました。ちなみにTXは、茨城県を代表する企業「日立製作所」によるデザインということをご存じでしょうか。そして、インフラ。線路がなければ、列車は走りません。駅がなければ、人も乗り降りできません。他にも、川を渡るための橋や、山を越えるためのトンネル。そう、それらを作ってきた建築や土木の人たちがいなければ、TXどころか、今の日本の経済も回っていなかったと言っても過言ではありません。

そこで、今回の『編集部の“みらい企業”探訪』は、建設会社である「東鉄工業株式会社」です。主に線路事業においては、国内最大規模。TX沿線はもちろん、みなさんの知っているあの駅や、いつも意識せず通過しているその路線、もしかすると東鉄工業が施工しているかもしれませんよ。それでは、行ってみましょう!

鉄道を取り巻く工事

東鉄工業は、1943年に鉄道省の要請により設立しました。この企業が他の総合建設会社と大きく異なる点は、鉄道関連の工事を専門としていることです。大きく分けて、「線路」「土木」

「建築」「環境」の4つの事業部門。

「線路」は、新設される電車の線路施工に加え、既存の線路のメンテナンス。「土木」は、高架橋や橋梁、トンネル、立体交差など、鉄道や道路の交通網。「建築」は、駅や商業施設、マンションなどを含み、建築家・妹島和代さんによる設計の「日立駅」も事例の1つ。「環境」は、建物の壁面緑化や屋上苔緑化、太陽光発電に建設廃材のリサイクルまで。建設会社といっても、あらゆることを行なっているんですね。

東日本大震災の復旧・復興にも尽力していて、富岡駅構内避難通路、震災復興のシンボルでもある「ヴィレッジ駅」新設工事。さらに、激しさを増している豪雨・台風などの異常気象への対策などにも技術力を発揮。常磐自動車道の4車線化に伴い、宮城県で行なった「吉田橋跨線橋」新設工事では、JR常磐線の上空分に2車線分の桁を架設する作業も、夜間の短い作業時間に完了させました。2020年にオープンした若者に人気の「日比谷OKUROJI」。有楽町駅・新橋駅間を結ぶ、歴史ある煉瓦アーチ高架橋を生かしながら高架下のスペースを開発。東京オリンピック・パラリンピック関連では、新国立競技場の最寄り駅の改良工事。さまざまな工事を、各部門が一丸となって取り組んできました。

『安全・品質』を学ぶ場

つくばみらい市に新たに生まれた東鉄工業の社員向けの研修施設「東鉄総合研修センター」。地域住民の方にとっては、線路や駅舎までである(!?)とても大きな敷地で一体何をしているのか気になるところではないでしょうか。今回は、特別に中を見学させていただきましたので、少しご紹介。センター内には、研修棟と実習棟の2つの大きな建物と、電車の線路(実習線)にホーム(ホームドアも設置)、踏切、そして、検修庫と呼ばれる車両メンテナンスを行なう倉庫があります。もちろん、東鉄工業で実際に使用する大型保線機械も配置。約4万平方メートルという敷地は、まだまだ設備の広がりを感じさせます。“実体験”の研修によって「知って、見て、



触れて、体感して」学ぶことができるようになったといいます。鉄道関連の工事は、列車が走っていない夜間での作業が多いため、危険を伴います。ですから、日中の明るい時間帯での研修は、大いに実践に役立っているそうです。

研修棟では、教室5室に、宿泊室26室、食堂やカフェスペース、ラウンジなど研修施設としては、とても充実した設備。そして、実際の事故現場をバーチャル体験できる研修も。よく見ると、建物のところどころにデザインの工夫もされており、床には線路をイメージした案内標識や、本物のレールが階段に利用されていたり。この経路案内のデザインは世界的なデザインアワードの「The One Show」で金賞を受賞。研修施設として利用するだけではもったいないほどの演出。社会科見学など、一般人にも開放してほしいほどの、まさに“産業ミュージアム”です。実習線では、大型保線機械に乗り込み、線路や枕木の歪みを修正する作業を見学させていただきました。

僕たち編集部も安全研修室にて事故を体験させていただきましたが、耳で聞くことよりも、体験することの重要性を改めて感じました。これが実際に起こる前の「研修でよかった」と思えるほどで、東鉄工業のみなさんは、こうした研修を通して、「列車の安全」「第三者の安全」「私たちの安全」——この3つの安全をモットーに、今も日本の鉄道を取り巻く暮らしを守っているのです。みなさんが安心して、電車に乗って、日常を送れているのも、こうした研修施設のおかげでもあるんですね。

東鉄工業株式会社 東鉄総合研修センター

住所：茨城県つくばみらい市紫峰ヶ丘2-1
電話：0297-38-8091

取材した人の声

これからも東鉄グループとして一体となり安全・品質の向上に努めていきます。この研修センターは、地域のみなさんとのふれあいや、つくばみらい市との連携を図り、親しみのある施設にしたいと思っています。大型保線機械の作業実演、点検車の試乗、踏切やホームで異常時対応体験などの「ふれあいフェスティバル」を開催していきたいと思っています。裏方の仕事を知っていただきつつご興味を持ってもらい、ぜひ弊社もしくは関連会社への入社をご検討いただけたら嬉しいです。

人材・技術開発本部
東鉄総合研修センター
左から
担当部長 新野雄次さん
上席主任 河村健一さん
所長 陣川博朗さん



つくばみらい市小絹にある寝具専門店「ふとんのマスタ」。増田敦司さんは、おじいさんが始めた手作り布団店の3代目。作務衣に身を包んだ姿はまさに職人。伝統的技術を継承した昔ながらの布団にこだわりがあります。

家業を継がれて既に30年以上の増田さんですが、約20年前に、シックハウス症候群のお客さんからいただいたオーダーをきっかけに、オーガニックコットン100%の布団を作り始めることになったそうです。中に入れる綿だけでなく、生地やミシン糸など全てがオーガニックコットン。さらに漂白、強度加工など化学的処理を行っていない安全な素材を採用しています。

シックハウス症候群や化学物質過敏症に配慮した布団店は全国でも珍しく、今では全国各地からオーダーや相談が絶えないそうです。今は大量生産されたポリエステル製の布団が普及し、住宅事情や高齢化などの理由でベッド派の人が多くいらいますが、増田さんは「一度、寝てみればわかりますよ」と自信を持って薦めます。

手作りの綿布団は、打ち直し（リサイクル）することで何十年も使え、たとえ役目を終えて捨てたとしても全ての素材が土に還るとのこと。今の環境問題を考える上でも持続可能なものづくりとして再評価されています。綿布団のある新しい生活スタイルも提案する増田さん。この機会に、みなさんも本当の快眠を味わってみてはいかがでしょうか。



全て手づくりで仕立てている、とても気持ち良さそうな布団です

たとえ役目を終えて捨てたとしても全ての素材が土に還るとのこと。今の環境問題を考える上でも持続可能なものづくりとして再評価されています。綿布団のある新しい生活スタイルも提案する増田さん。この機会に、みなさんも本当の快眠を味わってみてはいかがでしょうか。



自然に還る 布団づくり 増田敦司さん



つくばみらい市で 生まれた 多様な“声” 羽方達也さん

初めてお会いした時から、明るく気さくな人という印象を与え、少し打ち解ければ、冗談だって言い合える関係にもなってしまう。地元の幼なじみにいたのではないかと思えるくらいーそれが、羽方達也さんです。偶然にも取材した私と同世代だったというのを差し引いたとしても、彼には人を惹きつける魅力があります。それもそのはず、羽方さんの職業は、「ナレーター」。クライアントの要望に応え、あらゆる専門用語を駆使して、落ち着いた声、明るい声、元気な声、時には悲しい声……さまざまな語り口調で、たくさんの人にクライアントの思いを伝えてきました。それは、まるで役者のようです。

羽方さんは、つくばみらい市出身。結婚もされ、奥様と5人の子どもたちと暮らす日々。お笑い芸人に憧れていた学生時代から、“表

現する”ことが好きだった。アナウンス学校に通い、ラジオパーソナリティーなど、経験を積んできました。現在は、フリーのナレーターとしてさまざまな活躍。某カメラメーカーの新商品のプロモーションに、あのテレビ番組の宣伝動画……みなさんも一度は聞いたことのある声かもしれませんね。「心から好きと言える仕事に就いて欲しい」と、子どもたちの将来を寛大な心で見守る羽方さん。「百の声」で、たくさんの人を応援しています。

「本番いきます!!」いろいろな思いを伝えます



みらいの人

つくばみらい市で活躍する「人」にスポットをあてなぜつくばみらい市を選んだのか、今やっていること、つくばみらい市でやりたいことをそれぞれお聞きしました。

活躍するステージは違っても「これからのつくばみらい市を自分たちが創っていく」という想いは同じ。

一人一人の想いからつくばみらいの街づくりは始まっています。



市民にはお馴染みの小貝川はバス釣りのポイントとしても有名。アトリエには沢山の作品が飾られています



小貝川のほとりで 絵画と暮らす 西岡民雄さん

小貝川のほとりにアトリエ「飛動庵」兼住居を構える画家の西岡民雄さん。三重県出身の西岡さんは、これまでさまざまな地域で暮らしてきましたが、30年ほど前につくばみらい市に引っ越してきました。特に、この土地で小貝川が好きだと話す西岡さんの作品には、小貝川はもちろん、ウサギや猫などの動物に、昆虫や植物など、自然がモチーフになっているものが多くみられます。およそ50年、独学で主に油彩に取り組んできた西岡さんは、母子像から始まり、「どどんと変わっていく」という作風は多岐に渡ります。水彩、コラージュ……中には、流木を使った彫刻作品も。一つの

作品が完成するまで、その作品にしか取りかからない画家も多い中、西岡さんは、十数年前の絵画作品を出してきては、手を加えていきます。愛する家族のように心を通わせ、絵画とともに暮らしているかのよう。アトリエは、不定期で公開もしていますので、みなさんもぜひ訪ねてみてください。藁に覆われた建物は、うっかりすると通り過ぎてしまうほど自然に馴染んでいます。が、ひょっとしたらそれも作品なのかも？アートの面白さは、鑑賞する人によって異なります。きっとお気に入りの作品に出会うはず。“みらい”に向かって、彼も、作品も、まだまだ進化していきます。



4D超音波画像。赤ちゃんの表情もわかります。



新病院の玄関イメージ



つくばみらい市に
初の産婦人科医院が
誕生します！

TSUKUBAMIRAI NEWS

みらいの病院 つくばみらい 遠藤レディースクリニック

おかげさまでつくばみらい市の人口は5万人を超え、他都市と比べても賑わい豊かな地域になってきました。そんなつくばみらい市に念願の産婦人科医院が誕生します。茨城県内でも産婦人科を有する病院は、たった10ほど。都市部への移住に伴い、人口の減少、高齢化、少子化……ですから、産婦人科が新設されるなんて！

出産を経験したご家庭ならば、お子さんが産まれる喜びだけでなく、その苦労も実体験を通して知っているはず。

特にお母さんは、妊娠前から産後まで本当に大変なのです。例えば、妊娠中の健康管理、産後に必要な赤ちゃんの道具類、母子ともに食事のこと、などなど悩みは絶えません。もちろん、日本特有の「母子手帳」も役に立つのですが、やっぱり産婦人科の先生に頼りたい。

この度市内に新設される「つくばみらい遠藤レディースクリニック」は、筑西市で代々続く家族経営の医療法人。大きな病院ではないからこそ、一人一人の妊婦さんたちに寄り添い、安全で安心なお産を守ってきました。さらに、4D超音波画像診断により、お腹の赤ちゃんを立体的に見ることができ、より正確に迅速に赤ちゃんの健康状態を把握できます。産婦人科専門医かつ超音波専門医の院長 遠藤豊英先生をはじめ、女性の乳腺外科専門医も在籍し、乳がん・婦人科検診も行う予定、「みらい」を育み、「女性を守る」、頼もしい産婦人科医院です。



真摯に一人ひとりに向き合ってくれる姿勢が頼もしい、つくばみらい遠藤レディースクリニック医院長の遠藤豊英さん。

編集後記
歌をつくる。三船さんの楽曲に吹奏楽部が参加する。声に合わせて唄う。色違いの服で集まってみたり、少し大人になった幼なじみと再会したり。いつだって、変わってゆくふたつとない「わたしらしい今」。それからひとつひとつ「わたしたちらしい思い出」になっていくのかも。個性を大事に、と言われる今だから、

みんなが大切。当たり前だった人との距離が変わった2019年から2022年。3月27日、『MIRAI』の合唱。「大切な人たちといられる今が、特別な昨日になる」ってことを(クサイけど)やっぱり大切にしたい。そんなことを教えてくれたTSUKUBAMIRAIの光景でした。(編集ライター・水木隆史)

未来新聞は、つくばみらいのコミュニティ新聞です。

電話：0297-58-2111（代表） FAX：0297-58-5611

伊奈庁舎 ☎300-2395 茨城県つくばみらい市福田195番地
谷和原庁舎 ☎300-2492 茨城県つくばみらい市加藤237番地
みらい平市民センター ☎300-2358 つくばみらい市陽光台3丁目9番地1

www.city.tsukubamirai.lg.jp
発行日：2022年7月1日(金) 発行元：つくばみらい市



太洋コーン株式会社

いつも
おいしいの
そばにいます。